

湖山満目舊遊空 風景荒涼客路窮 雨意忽生桐葉外 秋光多在木犀中 乾坤混混多遊騎
江漢寥寥有斷鴻 自古隱人多嗜酒 卻憐無酒醉新豐

【読み】

湖山 目に満つれど 舊遊は空し 風景荒涼として 客路（かくろ）窮（きわ）まる 雨意（うい）忽（たちま）ち生ず 桐葉の外 秋光（しゅうこう）多くは木犀（もくせい）の中に在り 乾坤（けんこん）混混（こんこん）として 遊騎（ゆうき）多く 江漢（こうかん）寥寥（りょうりょう）として 斷鴻（だんこう）有り 古（いにしえ）より隱人（いんじん）は 多く酒を嗜（たしな）むも 卻（かえ）って憐れむ 酒無くして 新豐（しんぽう）に酔うを

【意味】

湖や山の景色が目の前いっぱいに広がっているが、かつての楽しかった遊びの記憶はもう空しい。周囲の風景は荒れ果て、旅人としての道の先も見えない。桐の葉の向こうに、ふと雨の気配が立ちこめてきた。秋の風情はすべて、香る木犀の花の中に満ちているようだ。天下は混沌としており、あちこちに騎兵（戦の気配）が満ちている。長江と漢水の広々とした流れには、孤独な雁が一羽飛んでいるだけだ。昔から世を逃れた隠者たちは、皆、酒を好んだものだが、いまは酒もなく、まるで新豐（古の酒宴の地）に酔っているかのような夢を見ている我が身が哀れでならない。

*客路…旅人としての道中、旅路。 *雨意…雨のけはい *秋光…秋の光・風情 *木犀…モクセイ。秋に香る花。 *遊騎…馬に乗って遊撃する兵士。戦乱の象徴。 *江漢…長江と漢水 *斷鴻…群れから離れた一羽の雁 *新豐…かつて漢の高祖劉邦が酒宴を開いた地 *趙春洲・莫兩山…人名

【出典】寄趙春洲莫兩山（仇遠・宋末元初）（趙春洲・莫兩山に寄す）

※この詩は、戦乱によって変わり果てた故地の景色と、漂泊の旅の哀愁を描いています。前半は、かつて親しんだ自然と風景が今は見る影もなく、孤独な旅の悲哀を詠んでいます。後半は、戦乱により乱れた世の中と、孤独な自分自身の姿を重ねます。